

## 1. はじめに

PBL (Problem-based Learning) とは、予め与えられたあるいは設定された問題やテーマに対して、その解決策をグループワークや討論などで導き出す学習形態である。そのプロセスにおいて、学生は主体的に学習に取り組まないと問題解決にたどり着かないことになり、授業に対する能動的姿勢が強く求められることとなる。本研究では、栄養士養成カリキュラムの中の一授業で行われた PBL が、学生らにもたらす効果（影響）と今後の課題について提示し、その可能性について考える機会としたい。

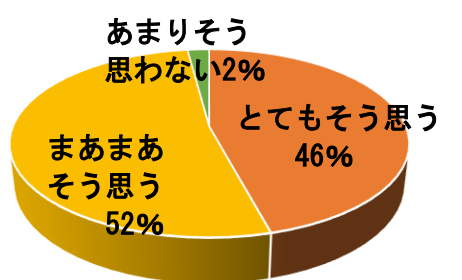
## 2. PBL の流れ

- |              |   |
|--------------|---|
| (1) 情報提供①    | スタート、シナリオ文提示                              |
| (2) グループ学習①  | 登場人物情報の抽出、プロブレムマップ作り<br>仮説設定、さらに必要な情報は何か？ |
| (3) 情報提供②    | 問題解決の <b>Keyword</b> を提示                  |
| (4) グループ学習②  | 調べ学習、知識の統合、発表準備                           |
| (5) 発表       | グループ学習の共有                                 |
| (6) 解説・ふりかえり |   |

## 3. 効果

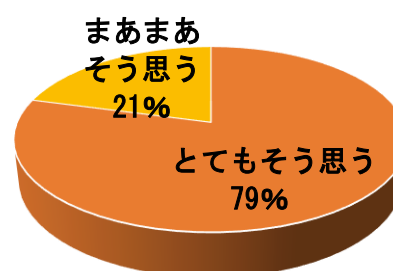
従来の知識詰め込み型の講義受講形態と異なり、学生が能動的に課題に取り組むことで、これまで体得した基礎知識を応用させるとともに主体性やプレゼン能力、コミュニケーション能力を涵養する。

〈専門的知識が活用されたか？〉



(4段階選択法)

〈普段より主体的に取り組めたか？〉



## 4. 課題

- (1) ファシリテーターである教員は、グループ学習中の学生にどこまで介入すべきか？  
グループ議論活性化のための工夫と配慮が必要。
- (2) いかに関与性あるシナリオが作成できるか？  
学習者のモチベーション維持のため、効果的に学習プロセスを経るためのシナリオ作りが重要。